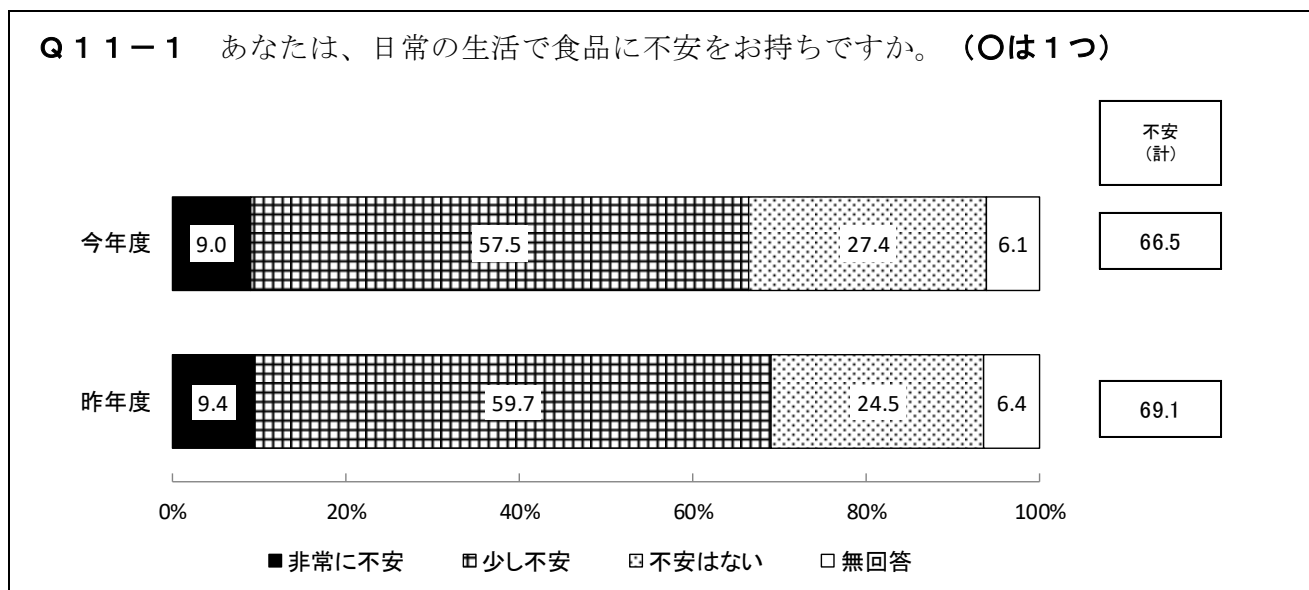


11. 食の安心・安全について

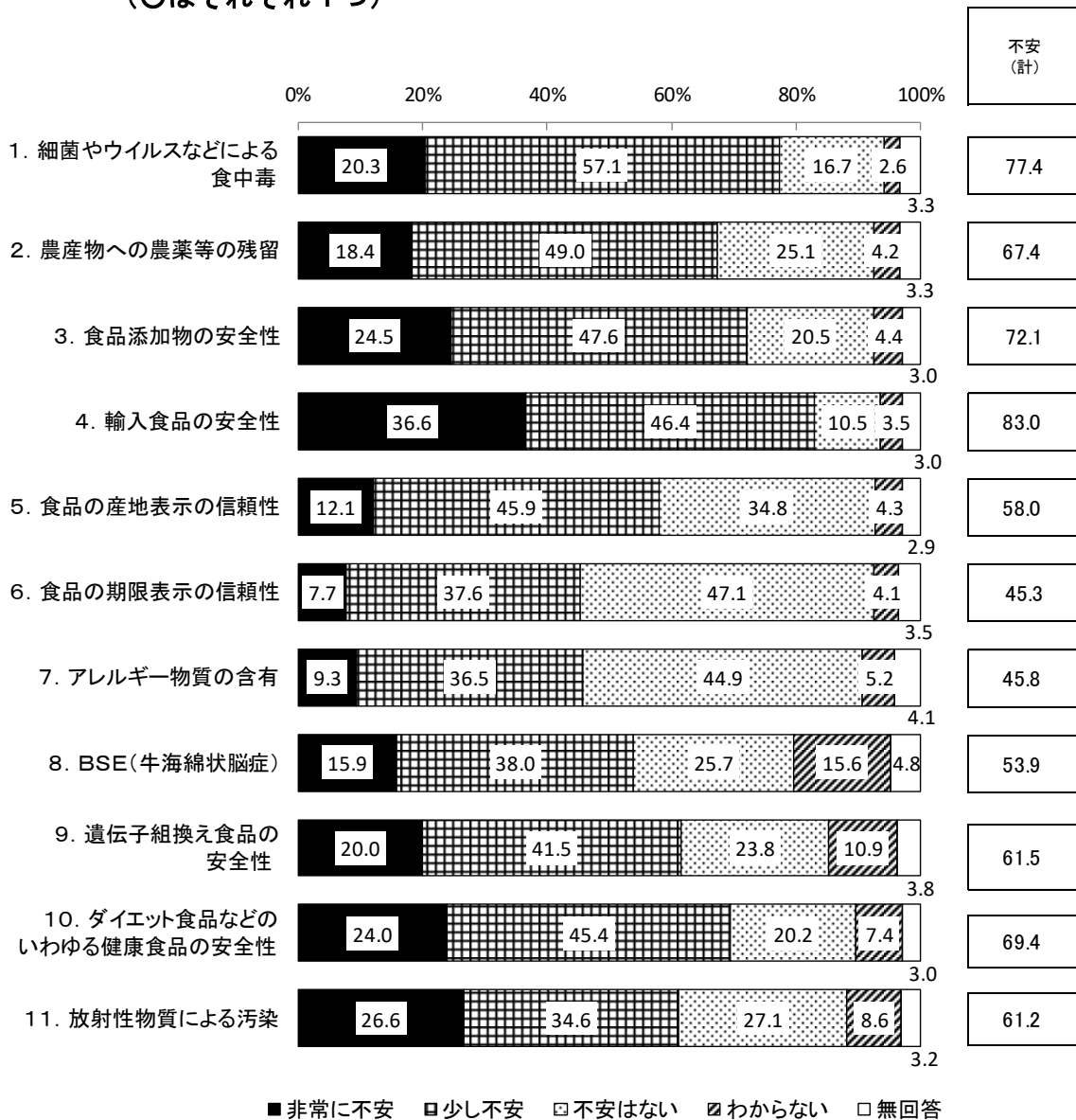
11-1. 食品に対する不安



食品に対する不安について、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安(計)』は66.5%と6割半ばとなっている。昨年度と比較すると、『不安(計)』は2.6ポイント低下している。

11-2. 食品について不安なこと

Q11-2 あなたは食品について、どのようなことに不安をお持ちですか。
(○はそれぞれ1つ)

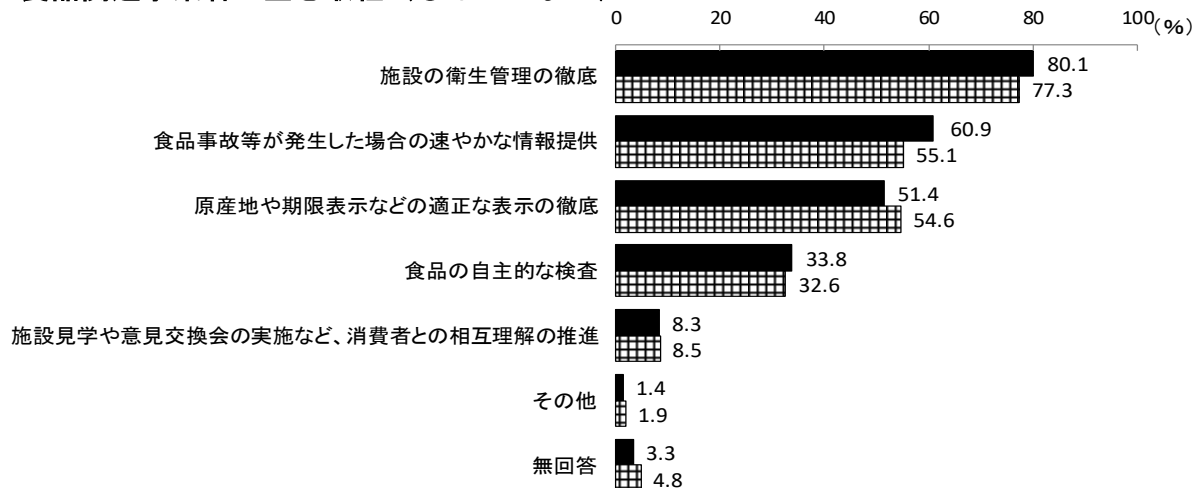


食品について不安なことについて、「非常に不安」と「少し不安」を合わせた『不安(計)』の割合は、「4. 輸入食品の安全性」が83.0%、「1. 細菌やウイルスなどによる食中毒」が77.4%、「3. 食品添加物の安全性」が72.1%、「10. ダイエット食品などのいわゆる健康食品の安全性」が69.4%などで高くなっており、7割弱から8割強となっている。

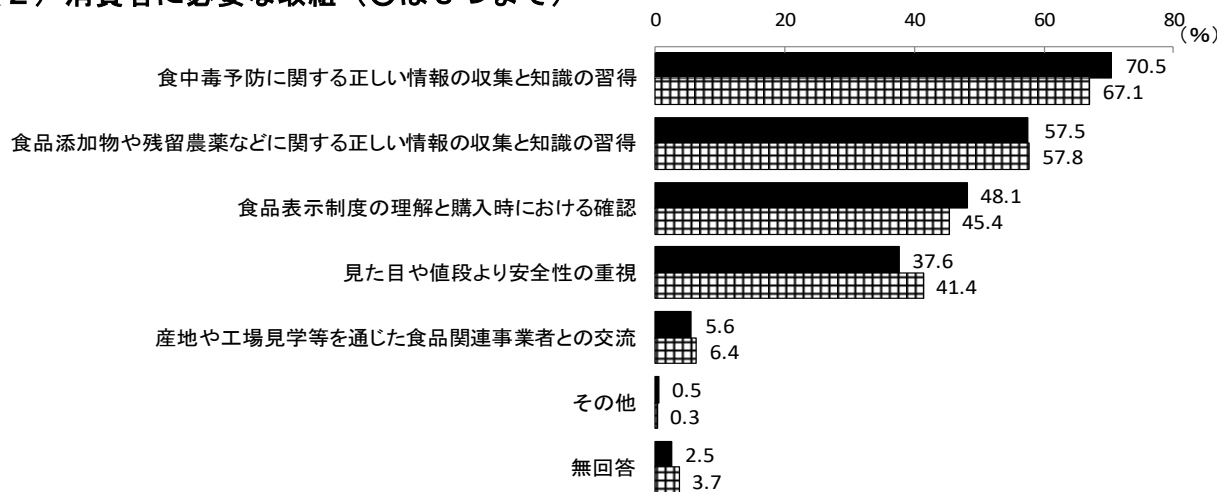
11-3. 県民が安全で安心な食生活を送るために必要な取組

Q11-3 あなたは、県民が安全で安心な食生活を送るために、「食品関連事業者（生産者、製造・加工者、販売者）」、「消費者」、「県」は、それぞれどのような取組が必要だと思いますか。

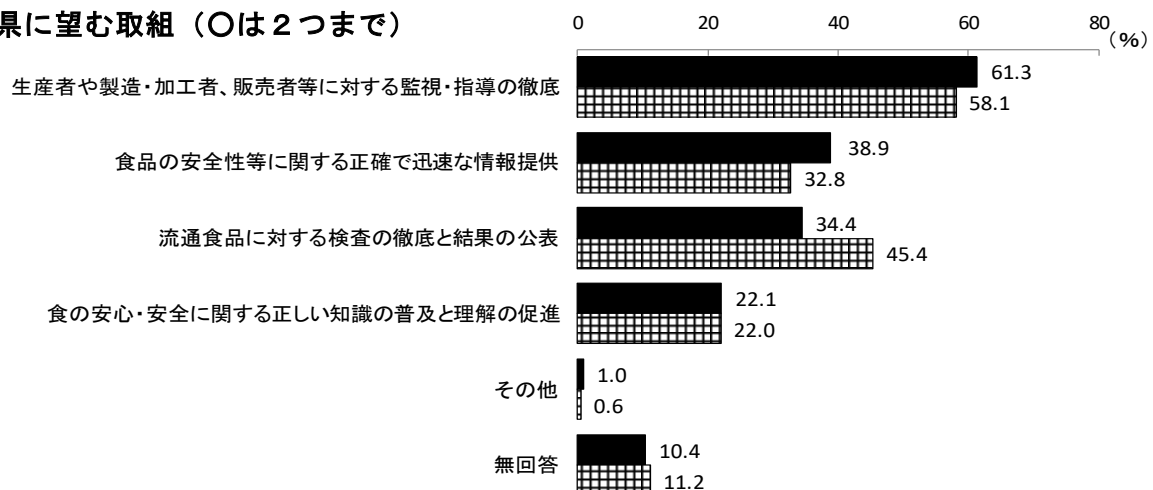
(1) 食品関連事業者に望む取組（○は3つまで）



(2) 消費者に必要な取組（○は3つまで）



(3) 県に望む取組（○は2つまで）



県民が安全で安心な食生活を送るために必要な取組について、「食品関連事業者に望む取組」は、「施設の衛生管理の徹底」が 80.1%と最も高く、次いで「食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供」が 60.9%の順となっている。昨年度と比較すると、「食品事故等が発生した場合の速やかな情報提供」が 5.8 ポイント、「施設の衛生管理の徹底」が 2.8 ポイントそれぞれ上昇し、「原産地や期限表示などの適正な表示の徹底」が 3.2 ポイント低下している。

「消費者に必要な取組」は、「食中毒予防に関する正しい情報の収集と知識の習得」が 70.5%と最も高く、次いで「食品添加物や残留農薬などに関する正しい情報の収集と知識の習得」が 57.5%の順となっている。昨年度と比較すると、「食中毒予防に関する正しい情報の収集と知識の習得」が 3.4 ポイント、「食品表示制度の理解と購入時における確認」が 2.7 ポイントそれぞれ上昇し、「見た目や値段より安全性の重視」が 3.8 ポイント低下している。

「県に望む取組」は、「生産者や製造・加工者、販売者等に対する監視・指導の徹底」が 61.3%と最も高く、次いで「食品の安全性等に関する正確で迅速な情報提供」が 38.9%の順となっている。昨年度と比較すると、「食品の安全性等に関する正確で迅速な情報提供」が 6.1 ポイント、「生産者や製造・加工者、販売者等に対する監視・指導の徹底」3.2 ポイントそれぞれ上昇し、「流通食品に対する検査の徹底と結果の公表」が 11.0 ポイント低下している